

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-310557

(43)Date of publication of application : 26.11.1996

(51)Int.Cl.

B65D 71/28  
B65B 17/02

(21)Application number : 07-138756

(71)Applicant : NAGASA KAKO KK

(22)Date of filing : 12.05.1995

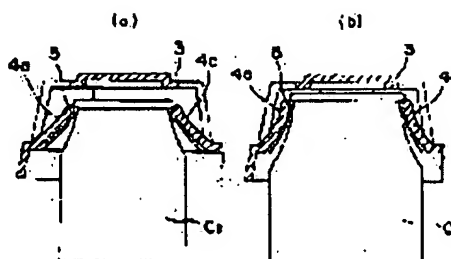
(72)Inventor : NAGAOKA KUNJI

## (54) CAN SUSPENDING DEVICE

## (57)Abstract:

PURPOSE: To allow a suspending device to be attached to cans having different sizes by a method wherein a plurality of engaging pieces which stand obliquely toward the inner side are formed in a circumferential direction on the inner periphery of a recess on the rear side of a cap-shaped engaging part corresponding to the upper shape of a can, and a protrusion is formed on the upper inner side of at least one of the engaging pieces so as to contact the upper part of the can.

CONSTITUTION: In a suspending device, cap-shaped engaging parts 3 are formed on a plate-shaped body of a synthetic resin at six points thereon and four engaging pieces 4a,... which stand obliquely toward the inner side are formed on the inner periphery of a rear side recess of each engaging part 3 continuously and integrally with the plate-shaped body and a semispherical protrusion 5 is formed on the upper inner side of each engaging piece 4a. When a can is attached to the part 3, in use, each engaging piece 4a is pushed by the upper end of a can C (CS, CL) and elastically, outwardly deformed and after the upper end of the can C has passed, a part just below the edge of the upper part of the can is brought into contact with the protrusion 5 of the piece 4a,... so that the end of edge of the upper



end of the can contacts the upper end of the piece 4a,... as to be fixed thereon.

---

#### LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 15.03.1996

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2859165

[Date of registration] 04.12.1998

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right] 04.12.2001

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-310557

(43) 公開日 平成8年(1996)11月26日

(51) Int.Cl. <sup>9</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 71/28			B 6 5 D 71/00	D
B 6 5 B 17/02			B 6 5 B 17/02	A

審査請求 有 請求項の数 4 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平7-138756

(22) 出願日 平成7年(1995)5月12日

(71) 出願人 591150845

永佐化工株式会社

福岡県福岡市東区箱崎ふ頭5丁目9番27号

(72) 発明者 永岡 剛二

福岡市東区青葉3丁目27番8号

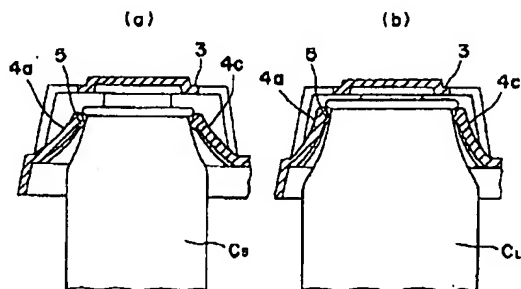
(74) 代理人 弁理士 加藤 久

(54) 【発明の名称】 缶吊り下げ具

(57) 【要約】

【構成】 合成樹脂製の本体2に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部3を複数箇所に形成した缶吊り下げ具の、嵌合部3の裏面側凹部3aの内周壁に、内側に向けて斜めに起立する係止片4を周方向に複数個形成し、かつ、同係止片4のうちの少なくとも1個の係止片の上部内側に、缶上部に当接する凸部5を形成する。

【効果】 一つの吊り下げ具を異なるサイズの缶に適用することができ、かつ、缶を取り外す際に凸部を形成した係止片が外向きに弾性変形して、缶を容易に取り外すことができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 合成樹脂製の本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具であって、前記嵌合部の裏面側凹部の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する係止片を周方向に複数個形成し、かつ、同係止片のうちの少なくとも 1 個の係止片の上部内側に、缶上部に当接する凸部を形成したことを特徴とする缶吊り下げ具。

【請求項 2】 合成樹脂製の本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具であって、前記嵌合部の裏面側凹部の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する係止片を周方向に複数個形成し、かつ、同係止片のうちの少なくとも 1 個の係止片の外側に、係止片を引き起こすための突起片を形成したことを特徴とする缶吊り下げ具。

【請求項 3】 合成樹脂製の本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具であって、前記嵌合部の裏面側凹部の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する係止片を周方向に複数個形成し、かつ、同係止片のうちの少なくとも 1 個の係止片を、同係止片の上部外側の一部を外方に向け延伸し、折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させて形成したことを特徴とする缶吊り下げ具。

【請求項 4】 合成樹脂製の本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具であって、前記嵌合部の裏面側凹部の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する係止片を周方向に複数個形成し、かつ、同係止片のうちの 2 個以上の係止片を、前記係止片内側に凸部を形成した請求項 1 記載の係止片と前記係止片外側に突起片を形成した請求項 2 記載の係止片および前記折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させて形成した請求項 3 記載の係止片のいずれか二つまたは三つの係止片を組み合わせて形成したことを特徴とする缶吊り下げ具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、缶入り飲料、缶詰などの缶の持ち運びに使用する吊り下げ具に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 缶入りのジュース、ビール、コーヒーなどや缶詰は、小売店においては 1 個毎のバラ売りまたは一定個数の包装状態で売られているのが普通である。一般の消費者が小売店でこれらの缶を購入し、持ち帰るにあたり、包装状態のものを購入した場合は、そのままの状態で格別の不便もなく持ち運ぶことができるが、バラ売りのものを購入した場合、とくに数本程度の缶を購入した場合は、持ち運びに不便をとまう。

【0003】 たとえば、バラ売りの缶ビールを購入した場合、缶を 1 個ずつショッピング袋に入れて持ち帰ることになるが、持ち帰る際に、ショッピング袋の中で缶ど

うしが重なり、ぶつかり合って、手で下げて運ぶのが不安定である。

【0004】 このような持ち運びの不便さを解消するものとして、数本程度の缶を収納する持ち運び用の包装用容器もあるが、この容器は全体的に嵩張り、容器を使用しないときの保管や取扱いが面倒である。

【0005】 上記のような問題を解消するものとして、本出願人は、図 13 に示すような吊り下げ具を開発した。この吊り下げ具 41 は、弾性に富む合成樹脂材を一体成形したもので、板状の本体 42 に缶 C の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部 43 を複数箇所に形成し、嵌合部 43 の裏面側の凹部には、内周壁に複数個の係止用突起を形成し、この嵌合部 43 の裏面側の凹部に缶 C の上部を嵌め込み、缶 C を吊り下げた状態で持ち運ぶものである。

【0006】 吊り下げ具 41 は、嵌合部 43 を缶 C の上部に押し付けるだけで簡単に缶 C への装着ができ、また取り外すときは、本体 42 と嵌合部 43 を弾性を利用して曲げながら缶 C から引き離すだけで簡単に外れるので、缶 C への着脱の手間は僅かである。また、持ち運びの際に缶 C どうしがぶつかり合うこともない。吊り下げ具 41 を使用しないときは、把手 44 を一点鎖線で示すように倒して、把手 44 の円弧部分を嵌合部 43 に掛けた状態で係止することができるので、保管や取扱いも容易である。

【0007】 この吊り下げ具 41 は、ジュース、ビール、コーヒーなどの缶飲料や缶詰の商品とは別の流通経路で販売し、消費者が必要ときに利用するか、あるいは、食品店や酒店などの小売店で準備しておき、バラ売り商品の購入者に対して無料あるいは有料で提供するようにして使用することができる。

## 【0008】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上記の吊り下げ具 41 は、嵌合部 43 の裏面側の突起を、特定の缶の上端サイズに合わせて形成しているので、この吊り下げ具 41 では特定サイズの缶のみしか吊り下げることができない、という欠点があった。

【0009】 そこで本出願人は、上記吊り下げ具 41 を改良して、一つの吊り下げ具で異なるサイズの缶を吊り下げることのできる吊り下げ具を開発し、特願平 7-62200 号として特許出願した。この出願になる吊り下げ具は、図 11 および図 12 に示すように、合成樹脂製の本体 32 に形成したキャップ状の嵌合部 33 の裏面側凹部の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する係止片 34 を周方向に複数個形成した吊り下げ具 31 である。

【0010】 この吊り下げ具 31 において、嵌合部 33 を缶に装着するときは、係止片 34 は缶の上端によって外側に押されて弾性変形し、缶の上端が通過した後、缶の上端の縁が係止片 34 の先端に係止される。このとき、上端サイズの小さい缶 Cs の場合は、図 12 の

(a) に示すように、係止片 34 が外側に向かって僅かに弾性変形するだけで缶 C5 の上端が通過し、缶 C5 の上端の縁が係止片 34 によって係止される。上端サイズの大きい缶 C1 の場合は、図 12 の (b) に示すように、係止片 34 が外側に向かって大きく弾性変形して缶 C1 の上端が通過し、同図に示す状態で缶 C1 の上端の縁が係止片 34 によって係止される。

【0011】このようにして、吊り下げ具 31 によれば、図 13 に示した吊り下げ具 41 の簡便性を維持したうえで、一つの吊り下げ具を異なるサイズの缶にも適用することができる。

【0012】ところが、上記吊り下げ具 31 においては、嵌合部 33 に装着した缶を取り外す際に、缶に対して吊り下げ具 31 を上方に引っ張るか、または缶を下方に引っ張ると、缶上端の縁で係止片 34 の上端を下方に押し下げることになるので、係止片 34 が外側に向かって変形しにくくなり、缶上端の縁が係止片 34 の上端から外れず、缶の取り外しが困難となる、という問題がある。

【0013】本発明が解決すべき課題は、キャップ状の嵌合部の裏面側凹部の内周壁に係止片を形成した缶吊り下げ具において、異なるサイズの缶への装着が可能で、かつ、嵌合部を缶に装着した後の、缶の取り外しが容易になる吊り下げ具の係止構造を得ることにある。

【0014】

【課題を解決するための手段】上記課題は、合成樹脂製の本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具において、前記嵌合部の裏面側凹部の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する係止片を周方向に複数個形成し、かつ、同係止片のうちの少なくとも 1 個の係止片の上部内側に、缶上部に当接する凸部を形成することによって解決することができる。

【0015】また、前記複数個の係止片のうちの少なくとも 1 個の係止片の外側に、係止片を引き起こすための突起片を形成することによっても上記課題を解決することができる。

【0016】また、前記複数個の係止片のうちの少なくとも 1 個の係止片を、同係止片の上部外側の一部を外方に向け延伸し、折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させて形成することによっても上記課題を解決することができる。

【0017】さらに、前記複数個の係止片のうちの 2 個以上の係止片を、前記係止片内側に凸部を形成した係止片と前記係止片外側に突起片を形成した係止片および前記折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させて形成した係止片のいずれか二つまたは三つの係止片を組み合わせて形成することもできる。

【0018】

【作用】本発明の吊り下げ具においては、嵌合部を缶の

上部に押し付けたとき、上端サイズの大きい缶の場合は、缶上端部が係止片の上部を内周壁側に強く押し付けた状態で缶上端の縁が係止され、上端サイズの小さい缶の場合は、缶上端部が係止片の上部を内周壁側に軽く押し付けた状態で缶上端の縁が係止される。係止片は弾性による復元力があるので、缶を取り外した後は元の状態に復元する。

【0019】そして、嵌合部の裏面側凹部の内周壁に形成した係止片の上部内側に、缶上部に当接する凸部を形成した吊り下げ具においては、吊り下げ具を缶に着脱する際に、この凸部が缶上部に当接することになる。したがって、係止片の上端は缶上端の縁の下に入り込むことがなく、缶を取り外す際に、缶に対して吊り下げ具を上方に引っ張るか、または缶を下方に引っ張ったとき、缶上端の縁で係止片の上端を下方に押し下げるのがなく、凸部を形成した係止片は外向きに弾性変形して係止片の上端が缶上端の縁から外れるため、缶の取り外しが容易になる。

【0020】また、係止片の外側に、係止片を引き起こすための突起片を形成した吊り下げ具においては、缶を取り外す際に、係止片外側の突起片に指を掛けて係止片を外方へ引き起こすことにより、引き起こされた係止片の上端が缶上端の縁から外れるため、缶の取り外しが容易になる。

【0021】また、係止片の上部外側の一部を外方に向け延伸し、折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させた吊り下げ具においては、缶を取り外す際に、係止片外側の延伸部に指を掛けて折り曲げ部を斜め上方に引き起こすことにより、係止片が外側に弾性変形して係止片の上端が缶上端の縁から外れるため、缶の取り外しが容易になる。

【0022】

【実施例】図 1 は本発明の第 1 の実施例である吊り下げ具を示す斜視図、図 2 は図 1 の嵌合部の縦断面図である。

【0023】本実施例の吊り下げ具 1 は、合成樹脂製の板状本体 2 の 6 箇所にキャップ状の嵌合部 3 を形成し、各嵌合部 3 の裏面側凹部 3a の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する 4 個の係止片 4a ~ 4d を形成したものである。

【0024】係止片 4a ~ 4d は、板状本体 2 に連続して一体的に成形されており、嵌合部 3 を缶に装着しないときは図 2 に示すように、嵌合部 3 の裏面側凹部 3a の内側に向かって斜めに直線状に延伸した状態になるように形成されている。これら係止片 4a ~ 4d の上部内側には、半球状の凸部 5 が形成されている。

【0025】嵌合部 3 を缶に装着するときは、図 3 の (a) および (b) に示すように、係止片 4a ~ 4d は缶の上端に押されて外向きに弾性変形し、缶の上端が通過した後、缶上端の縁の直下部分が係止片 4a ~ 4d の凸

部 5 に当接し、缶上端の縁の端部が係止片 4 a ~ 4 d の上端に当接した状態で係止される。

【0026】このとき、上端サイズの小さい缶 C<sub>S</sub> の場合は、図 3 の (a) に示すように、係止片 4 a ~ 4 d が外向きに僅かに弾性変形するだけで缶 C<sub>S</sub> の上端が通過し、缶 C<sub>S</sub> が係止片 4 a ~ 4 d によって係止される。上端サイズの大きい缶 C<sub>L</sub> の場合は、図 3 の (b) に示すように、係止片 4 a ~ 4 d が外向きに大きく弾性変形して缶 C<sub>L</sub> の上端が通過し、同図に示す状態で缶 C<sub>L</sub> が係止片 4 a ~ 4 d によって係止される。

【0027】吊り下げ具 1 は、嵌合部 3 を缶 C<sub>S</sub> または C<sub>L</sub> の上部に押し付けるだけで簡単に缶 C<sub>S</sub> または C<sub>L</sub> への装着ができ、また取り外すときは、板状本体 2 と嵌合部 3 を弾性を利用して曲げながら缶 C<sub>S</sub> または C<sub>L</sub> から引き離すだけで簡単に外れる。とくに本実施例においては、係止片 4 a ~ 4 d の上部内側に半球状の凸部 5 が形成されていて、図 3 に示すように、この凸部 5 が缶上部に当接し、係止片 4 a ~ 4 d の上端が缶上端の縁の下に入り込むことがないので、缶を下方に引っ張ると係止片 4 a ~ 4 d は容易に外向きに弾性変形して係止片 4 a ~ 4 d の上端が缶上端の縁から外れ、缶を容易に取り外すことができる。

【0028】吊り下げ具 1 を使用しないときは、把手 6 を一点鎖線で示すように倒して、把手 6 の円弧部分を嵌合部 3 に掛けた状態で係止することができるので、保管や取扱いも容易である。

【0029】なお、上記実施例では係止片の上部内側に形成する凸部を半球状の凸部 5 としたが、この凸部は半球状に限らず、たとえば図 4 の (a) ~ (d) に示すように、上下方向に適度の丸みを有する長短様々な形状の凸部 5 a ~ 5 d とすることができる。また、係止片の数は 4 個に限らず、3 個または 5 個以上であってもよい。また、上記実施例では全部の係止片に凸部を形成したが、一部の係止片のみに凸部を形成するようにしてもよい。

【0030】図 5 は本発明の第 2 の実施例である吊り下げ具の嵌合部を示す斜視図、図 6 は図 5 の嵌合部の縦断面図である。

【0031】本実施例の吊り下げ具 1 は、合成樹脂製の板状本体 12 に形成した嵌合部 13 の裏面側凹部 13 a の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する 4 個の係止片 14 a ~ 14 d を周方向に形成し、これらの係止片 14 a ~ 14 d のうち 2 個の係止片 14 a と 14 b の外側に、係止片を引き起こすための突起片 15 を形成したものである。

【0032】嵌合部 13 の缶への装着は、図 11 に示した吊り下げ具 31 の場合と同じであり、装着時の状態は図 7 の (a) に示すように、缶 C の上端の縁の下部が係止片 14 a ~ 14 d の上端に当接した状態で係止される。

【0033】吊り下げ具 11 を缶 C から取り外すときは、図 7 の (b) に示すように、まず、突起片 15 を形成した係止片 14 a (または係止片 14 b あるいは両係止片 14 a と 14 b) の突起片 15 に指 F を掛けて係止片 14 a を引き起こす。すると、係止片 14 a が外方に撓み、係止片 14 a の上端が缶 C の上端の縁から外れる。これにより、缶 C を傾けながら下方に引くと、残りの係止片は簡単に缶上端の縁から外れ、缶 C を容易に取り外すことができる。

【0034】なお、上記実施例においては、係止片を引き起こすための突起片の形状を板状のものとしたが、突起片の形状は板状に限らず、指を掛けて係止片を引き起こすことのできる形状であれば、どのような形状でもよい。また、係止片の数は 4 個に限らず、3 個または 5 個以上であってもよい。また、上記実施例では 4 個の係止片のうち 2 個の係止片に突起片を形成したが、1 個または 3 個以上の係止片に突起片を形成するようにしてもよい。

【0035】図 8 は本発明の第 3 の実施例である吊り下げ具の嵌合部を示す斜視図、図 9 は図 8 の嵌合部の縦断面図である。

【0036】本実施例の吊り下げ具 21 は、合成樹脂製の板状本体 22 に形成した嵌合部 23 の周方向の 4 箇所に、係止部 24 a ~ 24 d を形成したものである。

【0037】各係止部 24 a ~ 24 d は、嵌合部 23 の頂面と周壁の稜線 23 b から頂面側と周壁側に向かう 2 条の切り欠き 27 によって分離部分を形成し、この分離部分の周壁部の一部を、嵌合部 23 の裏面側凹部 23 a の内側に向けて斜めに起立する係止片 25 a ~ 25 d とし、これら係止片 25 a ~ 25 d の上部外側の一部を外方に向け延伸し、折り曲げ部 26 a ~ 26 d を介して嵌合部頂面に連続させたものである。

【0038】嵌合部 23 の缶への装着は、基本的には図 11 に示した吊り下げ具 31 の場合と同じであるが、本実施例の場合は、嵌合部 23 を缶の上部に押し付けたとき、上端サイズの小さい缶 C の場合は、缶 C の上端部が係止部 24 の係止片 (周壁部) 25 を軽く外向きに押し付けた状態で、缶 C の上端の縁の下部が係止片 25 の上端に当接した状態で係止され、上端サイズの大きい缶 C の場合は、図 10 の (a) に示すように、缶 C の上端部が係止片 25 を外向きに強く押し、係止部 24 の折り曲げ部 26 が上方に動いて、係止片 25 が外方に広がった状態で、缶 C の上端の縁の下部が係止片 25 の上端に当接した状態で係止される。

【0039】吊り下げ具 21 を缶 C から取り外すときは、図 10 の (b) に示すように、係止部 24 の折り曲げ部 26 の外側に指 F を掛けて折り曲げ部 26 を斜め上方に引くと、係止片 25 が外方に広がり、係止片 25 の上端が缶 C の上端の縁から外れる。このとき、対向する 2 箇所の係止部に同時に指を掛けて、両方の指を内側に

寄せるように力を入れると、2箇所の係止部の缶の係止を同時に外すこともできる。このようにして、缶Cを容易に取り外すことができる。係止片25は弾性による復元力があるので、缶Cを取り外した後は元の状態に復元する。なお、図中28は滑り止めのための凸部である。

【0040】なお、上記実施例においては、係止片の上部外側の一部を外方に向け延伸し、折り曲げ部を介して嵌合部頂面に連続させた係止部を嵌合部の周方向の4箇所に形成したが、係止部の数は4個に限らず、3個または5個以上であってもよい。また、複数箇所のうち一部の箇所は嵌合部頂面に連続しない係止片のみによる係止部とすることもできる。

【0041】以上のように第1ないし第3の実施例の吊り下げ具1、11、21によれば、図11に示した吊り下げ具31と同様に、一つの吊り下げ具を異なるサイズの缶に適用することができるという特性を維持したうえで、缶の取り外しを容易に行うことができる。

【0042】とくに第1の実施例の吊り下げ具1は、嵌合部3の裏面側凹部3aの内周壁に形成した係止片4a~4dの上部内側に半球状の凸部5を形成したことにより、この凸部5が缶上部に当接し、係止片4a~4dの上端が缶上端の縁の下に入り込むことがないので、缶を下方に引っ張ると係止片4a~4dは容易に外向きに弾性変形して係止片4a~4dの上端が缶上端の縁から外れ、缶を容易に取り外すことができる。

【0043】また、第2の実施例の吊り下げ具11は、係止片14a~14dのうち2個の係止片14a、14bの外側に、係止片を引き起こすための突起片15を形成したことにより、この突起片15に指を掛けて係止片14a（または係止片14bあるいは両係止片14aと14b）を引き起こして係止片14aを外方へ撓ませることができ、これにより係止片14aの上端が缶の上端の縁から外れ、残りの係止片も簡単に缶上端の縁から外れて、缶を容易に取り外すことができる。

【0044】また、第3の実施例の吊り下げ具21は、係止片25a~25dの上部外側の一部を外方に向け延伸し、折り曲げ部26a~26dを介して嵌合部頂面に連続させたことにより、この折り曲げ部26の外側に指を掛けて折り曲げ部26を斜め上方に引くと、係止片25が外方に広がり、係止片25の上端が缶の上端の縁から外れて、缶を容易に取り外すことができる。

【0045】さらに、嵌合部の複数個の係止片を全て同一の形状の係止片とするのではなく、第1の実施例における係止片内側に凸部を形成した係止片と第2の実施例における係止片外側に突起片を形成した係止片および第3の実施例における折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させて形成した係止片のいずれか二つまたは三つを組み合わせ形成することにより、缶の取り外しがより容易になる。

【0046】たとえば、嵌合部に係止片を4個形成し、

そのうち1個を第2の実施例における係止片外側に突起片を形成した係止片とし、他の3個を第1の実施例における係止片内側に凸部を形成した係止片とした吊り下げ具の場合、缶を取り外す際には、係止片外側の突起片に指を掛けて缶の係止を外し、吊り下げ具を上方に引っ張るか、または缶を下方に引っ張るが、このとき、外れていない他の3個の係止片には内側に凸部が形成されているため、缶を容易に取り外すことができる。

【0047】また、嵌合部に係止片を4個形成し、そのうち対向する2個を第3の実施例における折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させて形成した係止片とし、他の2個を第1の実施例における係止片内側に凸部を形成した係止片とした吊り下げ具の場合、缶を取り外す際には、頂面に連続した係止片の折り曲げ部に指を掛けて缶の係止を外し、吊り下げ具を上方に引っ張るか、または缶を下方に引っ張るが、このとき、外れていない他の3個の係止片には内側に凸部が形成されているため、缶を容易に取り外すことができる。

【0048】なお、上記第1ないし第3の実施例においては、本体を板状とし、この板状本体の6箇所に嵌合部を形成することを基本構成としたが、本体は板状に限定されるものではなく、たとえば板状の周囲に垂下部を形成したものでもよく、また、嵌合部の数は5個以下あるいは7個以上でもよい。また、本体の平面形状も長方形に限らず、多角形、円形、長円形などとしてすることができる。

【0049】

【発明の効果】本発明によって以下の効果を奏することができる。

【0050】（1）本体に形成したキャップ状の嵌合部の裏面側凹部の内周壁に、内側に向けて斜めに起立する係止片を周方向に複数個形成した缶吊り下げ具の、一つの吊り下げ具を異なるサイズの缶に適用することができるという特性を維持したうえで、缶の取り外しが容易になる。

【0051】（2）嵌合部の裏面側凹部の内周壁に形成した係止片の上部内側に缶上部に当接する凸部を形成した吊り下げ具においては、吊り下げ具を缶に着脱する際に、この凸部が缶上部に当接することになり、係止片の上端は缶上端の縁の下に入り込むことがない。このため、缶を取り外す際に、缶に対して吊り下げ具を上方に引っ張るか、または缶を下方に引っ張ったとき、凸部を形成した係止片は缶上端の縁で係止片の上端が下方に押し下げられることなく容易に外向きに弾性変形して係止片の上端が缶上端の縁から外れるので、缶の取り外しが容易になる。

【0052】（3）嵌合部の裏面側凹部の内周壁に形成した係止片の外側に係止片を引き起こすための突起片を形成した吊り下げ具においては、缶を取り外す際に、係止片外側の突起片に指を掛けて係止片を外方に引き起こ

すことにより、引き起こされた係止片の上端が缶上端の縁から外れるので、缶の取り外しが容易になる。

【0053】(4) 係止片の上部外側の一部を外方に向け延伸し、折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させた吊り下げ具においては、缶を取り外す際に、係止片外側の延伸部に指を掛けて折り曲げ部を斜め上方に引き起こすことにより、係止片が外側に弾性変形して係止片の上端が缶上端の縁から外れるので、缶の取り外しが容易になる。

【0054】(5) 嵌合部の複数個の係止片を、係止片内側に凸部を形成した係止片と係止片外側に突起片を形成した係止片および折り曲げ部を介して嵌合部の頂面に連続させて形成した係止片のいずれか二つまたは三つを組み合わせ形成した吊り下げ具においては、係止片を全て同一の形状にしたときよりも、缶の取り外しがさらに容易になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第1の実施例である吊り下げ具を示す斜視図である。

【図2】 図1の嵌合部の縦断面図である。

【図3】 図1の吊り下げ具による異なるサイズの缶の係止状態を示す図である。

【図4】 凸部の他の形状の例を示す図である。

【図5】 本発明の第2の実施例である吊り下げ具の嵌合部を示す斜視図である。

【図6】 図5の嵌合部の縦断面図である。

【図7】 図5の吊り下げ具における缶の係止状態と取外し時の状態を示す図である。

【図8】 本発明の第3の実施例である吊り下げ具の嵌合部を示す斜視図である。

【図9】 図8の嵌合部の縦断面図である。

【図10】 図8の吊り下げ具における缶の係止状態と取外し時の状態を示す図である。

【図11】 先願にかかる吊り下げ具を示す斜視図である。

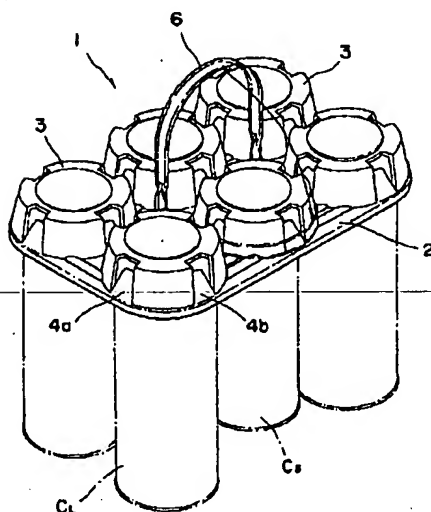
【図12】 図11の吊り下げ具における異なるサイズの缶の係止状態を示す図である。

【図13】 従来の吊り下げ具の一例を示す斜視図である。

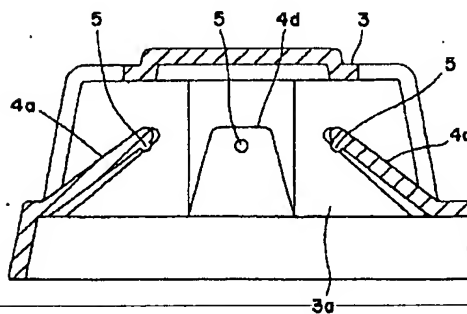
【符号の説明】

- 1, 11, 21 吊り下げ具
- 2, 12, 22 板状本体
- 3, 13, 23 嵌合部
- 3a, 13a, 23a 凹部
- 4a~4d, 14a~14d 係止片
- 5, 5a~5d 凸部
- 6 把手
- 15 突起片
- 23b 稜線
- 24, 24a~24d 係止部
- 25, 25a~25d 係止片
- 26, 26a~26d 折り曲げ部
- 27 切り欠き
- 28 凸部(滑り止め)
- C, CL, CS 缶

【図1】

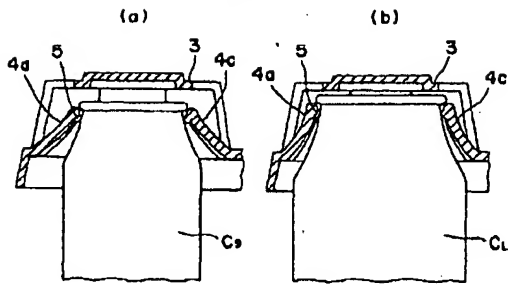


【図2】

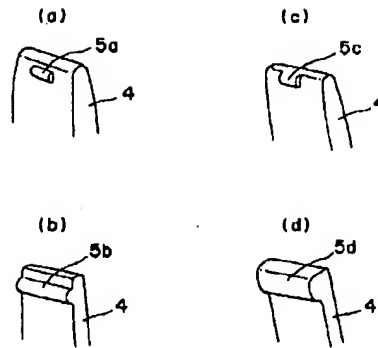




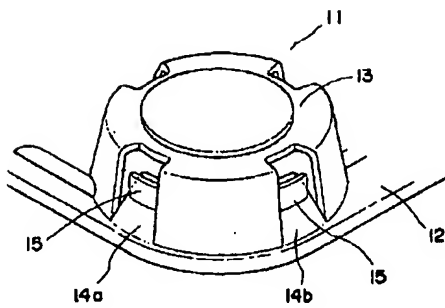
【図3】



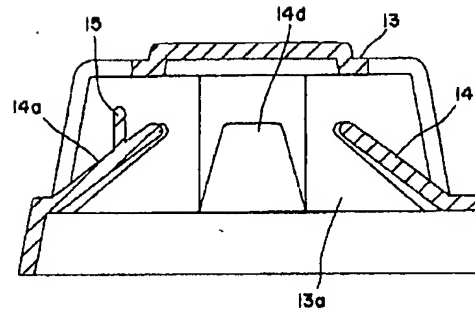
【図4】



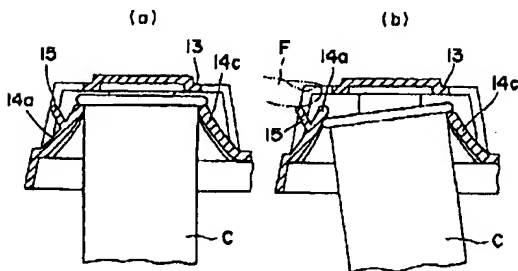
【図5】



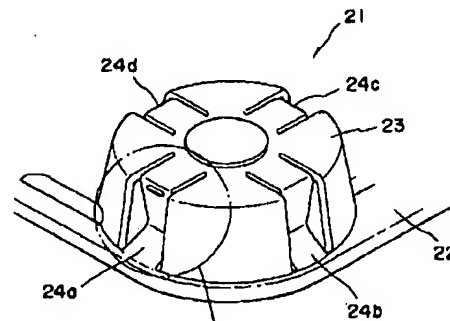
【図6】



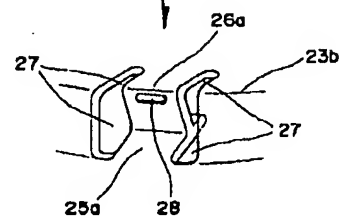
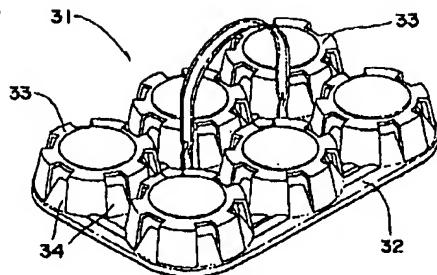
【図7】



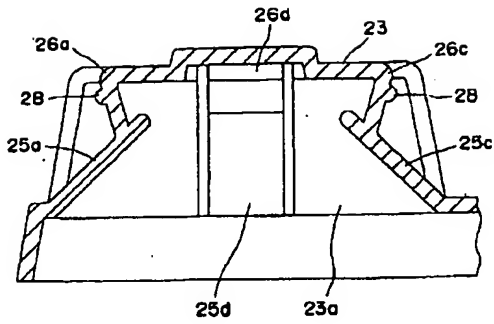
【図8】



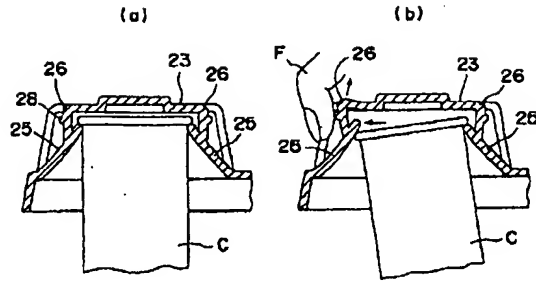
【図1.1】



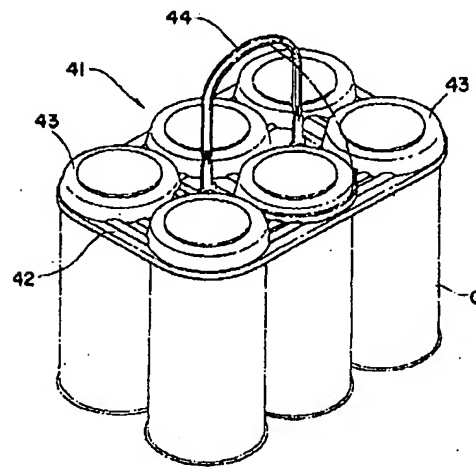
【図 9】



【図 10】



【図 13】



【図 12】

